



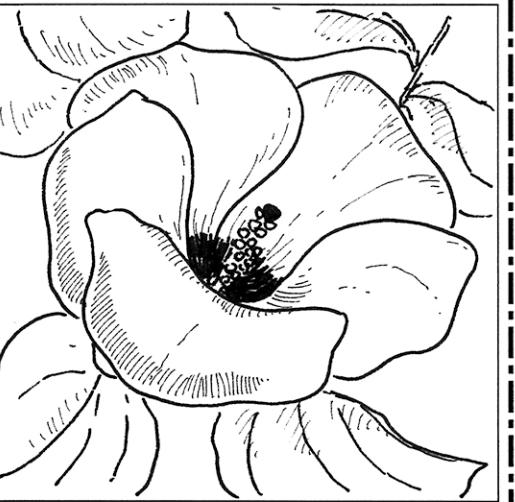
カニはなんで赤いん  
だろ。だつて美味  
しそうだがら!?

## ボウつしてたら 速報! 台風18号各地に爪痕を残す ハマボウがどつかに流されていつちやつたんだよ~。

中津川河口で中津市初確認の植物「ハマボウ」が発見されたのは、まだ世間が夏休みに入る前の7月のはじめだった。中津川河口の小さな砂州に二株、鮮やかで可憐な黄色い花が水面に映って涼しげだった。ところが、ガタガタ通信で読者のみなさまに伝える間もなく、9月に猛威をふるった台風18号の風雨で跡形もなく流されてしまったノダ!!!

暴風雨の中現場に居合わせたYさんの証言によると「いやあ、それはもう、ものすごい波だったんですよ。あっという間に何もかも流れていってしまいました」。もともと海岸部で波に流された種が芽を出したものと推測されるが、何とも残念な話だ。ちなみに水辺に遊ぶ会ではこんなこともあろうかと種子を保管してあるとのこと。「ハマボウ里親」希望者を募っているとのことなので、植物の飼育?に自身アリの方は是非、事務局まで。

**ハマボウ** ●アオイ科 絶滅危惧カテゴリー: 大分県II 海岸の河川汽水域に生育、港湾工事や河川改修などにより生息地の減少や消滅が懸念される。ハイビスカスの仲間。



### MIZUBE ライブラリー



#### 子どもと楽しむ 自然観察ガイド&スキル

著者: 藤本和典 企画: 芸術教育研究所  
発行: 黎明書房 定価: 2,310円(税込み)

★子どもの自然に対する好奇心を伸ばし、身近に生きる小さな命が発するメッセージを読みとるスキルとノウハウを紹介。幼児教育や子育て支援の場、教育環境、そしてご家庭で、環境教育にすぐに役立つ一冊です。

★購入希望の方は水辺に遊ぶ会事務局までご一報下さい。

今はまだやね。  
たまちやつたよ。  
ごめんよ。

★編集部より★夜の別府浜で舞踊に興じるあべの元麻呂殿、次号では是非、水辺の生きものと昔話のお話をご披露下さいませ。

主人公になるむかし話はとても多い。魚から恩返しされたかと思えば、敵討ちをされたりと、お互いの命をかけた油断もスキもない話のタネにされている。カニさん達、御同類が赤くされた時はご用心!



『さるかに合戦』のかには、ゆがいてもいのに何故赤いのだ? ゆむかし話の世界のカニは何故かみない赤い。だけど海や川で生きていたり、中津のガザミだって海の中では美しい青緑色なのに、これがかかる。赤い色のカニは人間の食欲をそそのので、「おー、旨そうじゃ、むしゃ」と食べられてしまう。このお話のカニは最初から赤く、陸に住んでサルと知恵を比べたりする。はてな?

ざざん、ざざん、打ち寄せる大波に脚を踏ん張つて全身を振るわせる。小さなカニのどこにこんな力があるんだろう。生きものはみんな必死だ。だから観ていて感動するんだろうね。

私は、思うにこれはアカテガニのことではあるまい? 赤くて大きくて威嚇的な姿で器用に道路を横切ったり、お風呂場の隅や用水路あたりにいたり、いかにも世慣れしている感じのカニがいる。夏の満月の夜にはいそいそと浜辺に馳せ参じ、波の間に間に産卵してはすたこらさと帰つて行く。サルに青い柿を投げつけられて母さんからじゅくじゅくと子ガニが産まれてくる件は、この産卵風景を彷彿とさせる。

調べてみると水辺の生きものが主人公になるむかし話はとても多い。魚から恩返しされたかと思えば、敵討ちをされたりと、お互いの命をかけた油断もスキもない話のタネにされている。カニさん達、御同類が赤くされた時はご用心!

中津で唯一残る砂浜の海岸、舞手川河口では、今夏も生命のドラマが毎日繰り返されていた。満月の下、放仔のために浜を埋め尽くすアカテガニ。砂の中で誕生の時明かりの下でキラキラと身を翻す生まれたばかりの魚たちの群れ。川と海が出逢う場所は、呼吸をするように寄せてはかえす潮とともに生命をつなぐ営みが脈々と受け継がれている場所でもあります。

どうしてかわるんだろう。わがるんだろう。



水辺に遊ぶ会ミュージアム展示No.1  
**カーバイト** (かーばいと)

中津干潟絶滅危惧種指定IA類。  
じいちゃん、ばあちゃんの  
海の昔話に必ず登場する昔の道具。

「懐中電灯なんざあ  
比べもんにならんくらい

明かりをつけて夜の海で魚や貝を獲る  
火ぐり漁には必需品だつたらしいが、

三十年ほど前から急速にその姿を見

見るのは減った。家の物置にひつそりと生息しとる!

という目撃情報があつたら

至急水辺に遊ぶ会までご連絡されたい。

よい子の  
里海里浜  
図鑑